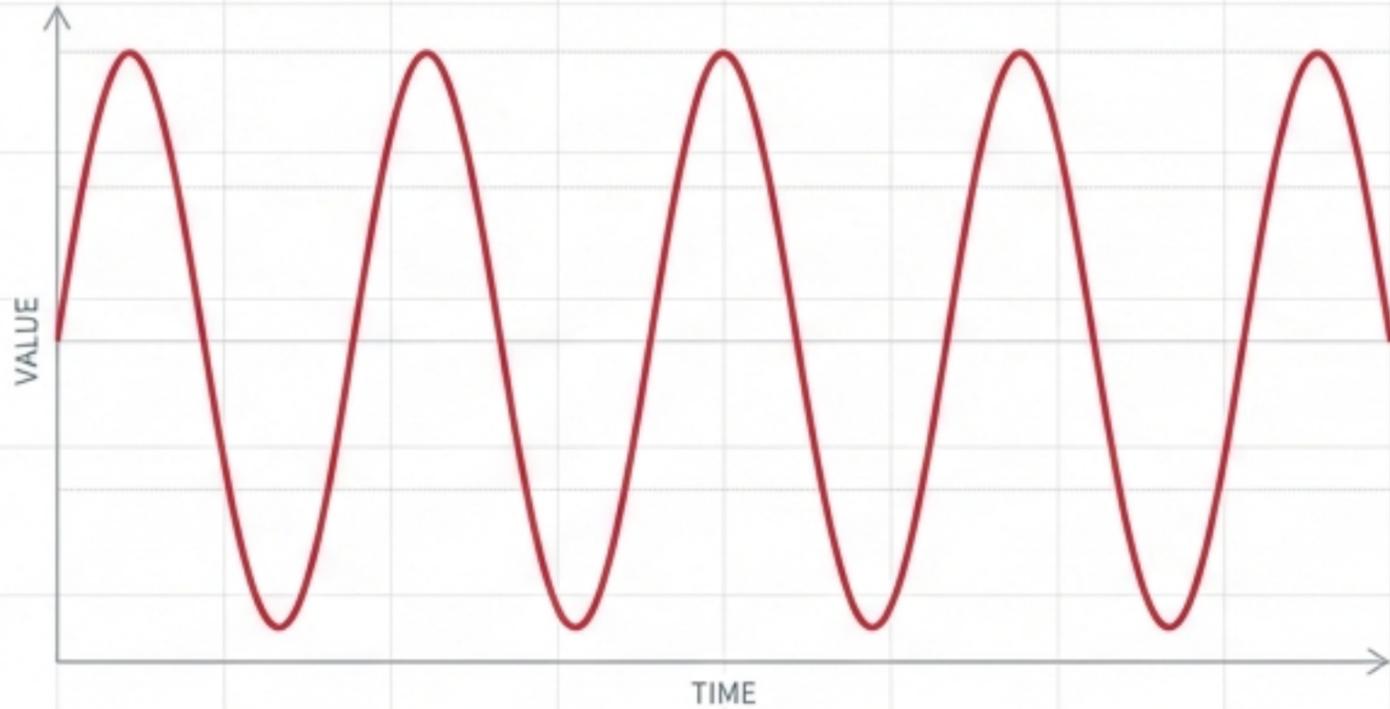


# サイクル理論の罨と、実戦で 勝つための「構造」の読み方

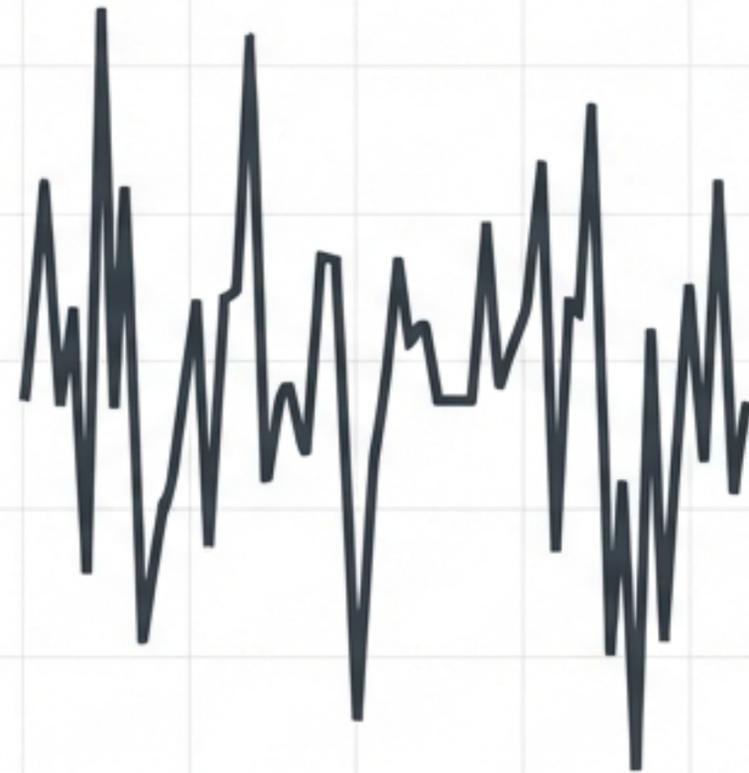
未来を予測するのをやめ、現在の相場を観察する

## 理論 (過去チャート)



「未来が読めるかもしれない」という期待

## 実戦 (リアルタイム)



「で、結局どこから数えるの？」

理論は理解できても、実戦になると使えない。  
これがサイクル理論の最大の壁です。

# サイクル理論が使いにくい理由は、 起点が固定できないからです



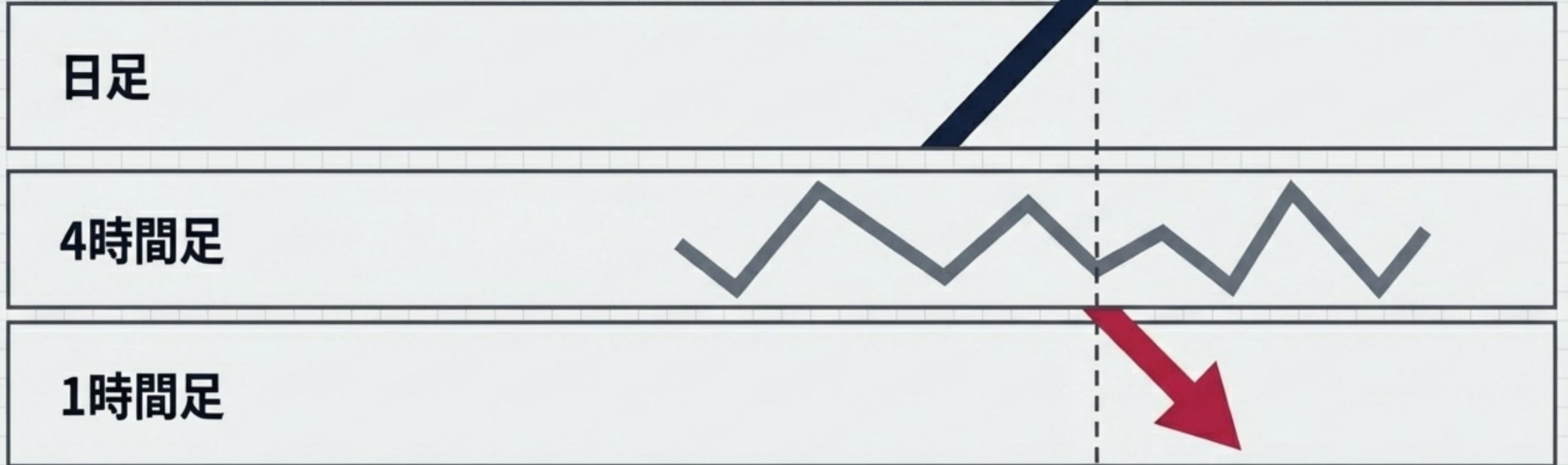
↓ 小さな押し目を拾う人

↓ 大きな波だけ見る人

↓ 調整を含めるか含めないかで分かれる人

起点がズレた時点で、カウントはすべてズレる。始まりも終わりも人によって違うため、再現性が出ません。

# 時間足によって基準が変わり、 周期は完全に崩壊する



どこを基準にするかで起点が変わり、トレンドは伸びたり急に終わったりします。  
相場に「綺麗な周期」は存在しません。

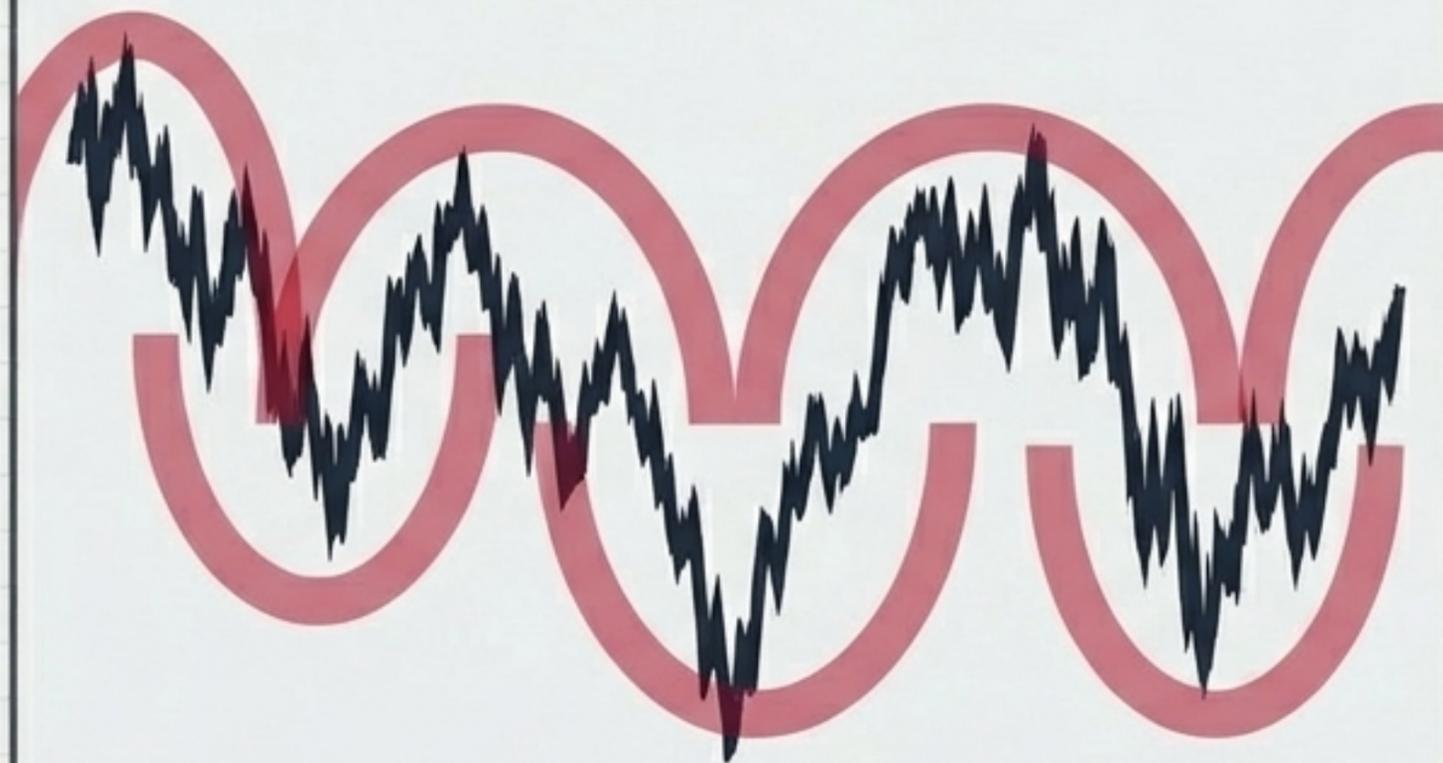
# 正解がないのに、正解っぽく見えてしまう罠

ライブの相場



意味のない不規則な動き

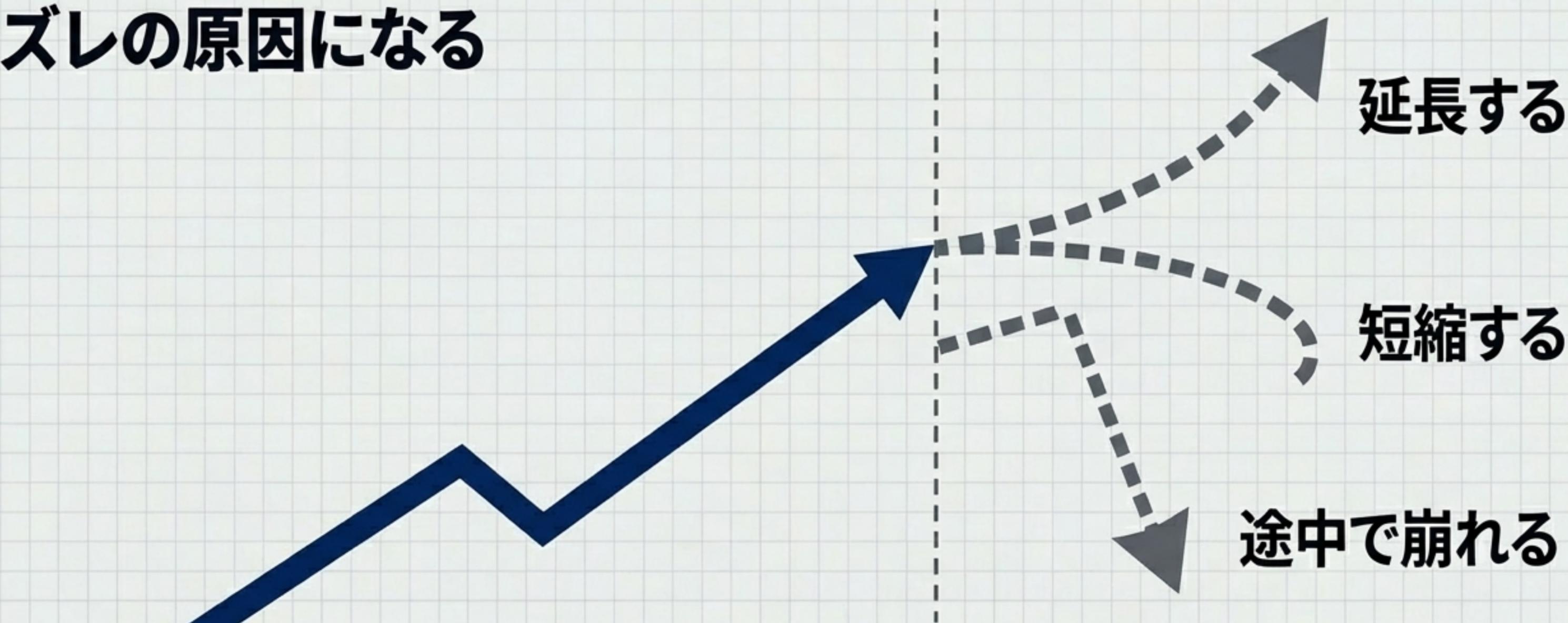
後からの解釈



後から見れば、いくらでも説明できてしまう

相場は“解釈できてしまう構造”です。人間は意味のないものにも意味を見つける生き物であり、これがサイクル理論から抜け出せない心理的な理由です。

# 終点を予測しようとする行為自体が、ズレの原因になる



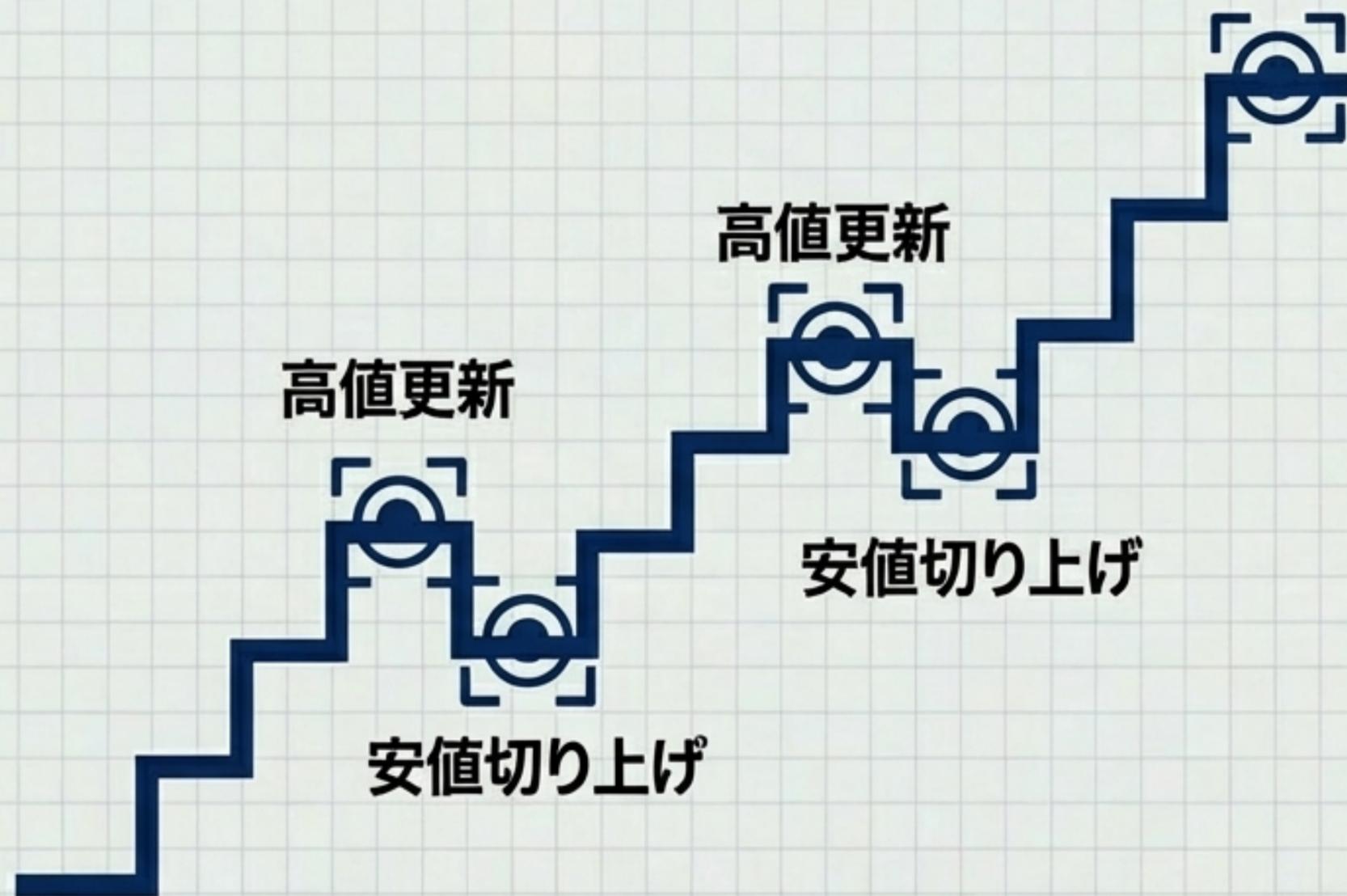
どこで1サイクルが終わるのか、明確な定義はありません。終わりを決めよう(当てよう)とするから、相場の現実とズレが生じます。

# サイクルを数えるくらいなら、ダウ理論でいい

	サイクル理論	ダウ理論
判断の基準	時間 / 予測	構造 / 観察
起点と終点	曖昧で主観的	明確で客観的
アクション	日数を数える	高値・安値の更新

トレードとして成立させるために必要なのは、曖昧な「時間」ではなく、明確な「構造」です。

# 数えるな、構造を見る



- 1. 高値更新しているか？
- 2. 安値切り上げしているか？
- 3. トレンドが継続しているか？

起点も終点も曖昧なサイクルを捨てる。  
チャートの「構造」だけで現在のトレンドを判断する。

# 波動の代わりに「強弱」で相場を見る



**5日**  
**(短期)**



**1ヶ月**  
**(中期)**



**3ヶ月**  
**(長期)**



**6ヶ月**  
**(超長期)**

波を数える必要はありません。どちらの方向が強いかを見ること。  
日足ベースでこの4つの期間の強弱を合わせるだけで、  
シンプルかつ強力なトレードが可能です。

# 基準が欲しいなら「SwingSniper」の スイングハイ・ローだけでいい



- どうしても起点の基準が必要な場合のみ使用する。
- ただし、「終点」は絶対に気にしないこと。
- 相場は延長し、短縮し、崩れるものとして扱う。

基準がベースに環境が必要な起点を使用する。  
相場には延長、短縮し、崩れだけで現在のトレンドを判断する。

未来を当てるゲームから降りる。相場は「観察」するものです。

予想する者



サイクルを追うほど迷う

観察する者



シンプルにするほど安定する

数えるな。構造を見る。強弱を見る。  
これが、実戦で使える真の考え方です。